

株式会社精工技研（千葉県松戸市）

～高い精密加工技術で幅広い分野へ事業展開～

1. 金型事業と光製品事業の二本柱

株式会社精工技研は、1972年（昭和47年）に自動車用のギア部品の金型製造を目的として、現在の相談役が創業したのが始まりである。その後、1981年（昭和56年）には、「更に精密な加工を行いたい」、「これからは光関係の事業が伸びる」との考えから、光ディスク、MOを成形するための金型の開発を開始した。そして、既存の金型よりも高い精度の実現と品質管理の徹底の結果、同社の金型を組み込んだ光ディスク成型装置は、世界の光ディスク成形メーカーに販売されるようになった。

また、光ファイバーの先端を加工するためには、高度な精密加工技術が要求されるが、同社では、1986年（昭和61年）、これまで金型製造で蓄積してきた技術を活かして光通信用デバイスの事業分野にも進出した。

現在、同社は金型事業と光製品事業を中心に事業を展開している。

2. 開発技術と特許

同社の特徴は、高い精密加工技術をベースに開発を行い、顧客のニーズに応える商品を提供している点である。

光コネクタ研磨機では、遊星円運動と自転円運動を組み合わせた複合円軌跡機構と弾性研磨盤を利用することで、光コネクタの端面を球面状に研磨する高精度かつ生産性の高い装置を開発した。現在では、この機構が世界のデファクトスタンダードとなり、高いシェアを獲得している。

一方、金型では、MO成型用金型で培ったノウハウと実績を活かして、CD-RやDVD成型用金型を生産している。一般に、光ディスクは、高密度化に比例して成型用金型に求められる精度も高くなるが、同社では、高い技術力をベースとして、Blu-rayDiscに代表される次世代光ディスク用の金型の生産も開始するなど、ニーズを先取りした開発を行っている。

また、2003年（平成15年）、同社は、光コネクタアダプタ内部のフェルール端面を効率よく清掃できるクリーナーを開発した。従来は、通信工事の現場で綿棒とエアブローを用いて清掃していたが、開発したテープ送り機構によればワンタッチ操作で清掃できるようになり、清掃コストの削減にも大きく貢献している。

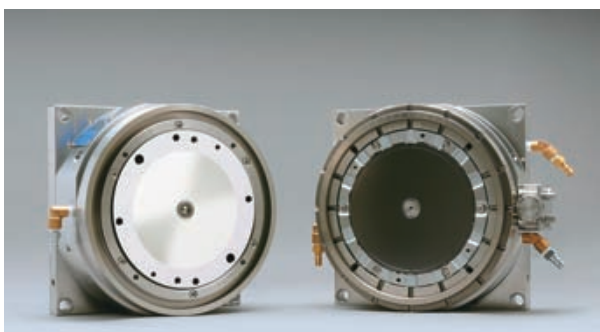
開発した技術については、毎年数十件の特許出願を行い、現在100件以上の特許を保有している。また、製品の形状については意匠権、商品名については商標権を取得し、事業や製品を知的財産権で積極的に保護している。

社内に、知的財産に係る担当部署を設置し、出願、審査請求の判断を行うほか、取得した特許権等の管理を行い、毎年1回、権利の存続について検討を行っている。また、研究者向けに知的財産に関する研修を行って、会社全体で知的財産への意識を高めている。

3. 次世代を切り拓く研究開発

金型事業と光製品事業を中心に事業を行っている同社であるが、今まで培ってきた技術を活かして、雷の影響を受けにくい光伝送装置、光ファイバを用いて精密な測定を可能とする光電界センサ、携帯電話用カメラなどの用途に向けた耐熱性の高いレンズなど新たな技術開発にも着手しており、今後成長が見込まれる幅広い産業分野での活躍が期待される。

●保有権利に基づく製品例



光ディスク成形金型



光電界センサ



高耐熱レンズ

●会社概要

名称及び代表者名	株式会社精工技研 代表取締役社長 上野 昌利
本社所在地	千葉県松戸市松飛台296-1
創業	1972（昭和47）年
資本金	67億9,200万円
従業員数	255名
主要製品	光ディスク用精密金型、光部品の製造・販売
電話	047-311-5111
URL	http://www.seikoh-giken.co.jp